目指す学校像	誰からも愛され、誇れる学校 「学べてよかった学校」…生徒 「通わせてよかった学校」…地域や保護者 「勤務してよかった学校」…教職員
重点目標	1 確かな学力の定着と向上に迫る「わかる・楽しい」授業の展開 2 安心・安全で潤いのある教育環境づくりの一層の推進 3 コミュニティ・スクールによる連携強化、情報発信の充実 4 教職員の資質向上及びワーク・ライフ・バランスの充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和7年2月17日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・数学ともに県平均及び全国平均を上回っており良好な結果である。 ○学校評価アンケート「授業の内容の理解」に関する項目では、肯定的な意見が97%、同保護者アンケートでは同項目で肯定的な意見が81%、生徒アンケートでは94%となっている。 ○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションしたりすることに意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○学力は全体的に高い水準を示しているが、個別に支援が必要な生徒が各学年複数名在籍する。 ○全体的に教育相談に係る配慮が必要な生徒が多く、Sola る一む等に登校する生徒へのアプローチが課題である	・「個別最適な学び」の推進に向けた情報端末の活用、授業改善 ・教科横断型の「探究的な学び」の実践	①「さいたま市スマートスクールプロジェクト」構想にかかわり、与野東中学校としてのスタンダードを確立する。 ②スタディ・サプリを学校及び家庭において活用し、特に家庭学習の充実を図る。 ③「学びのポイント」(じしゃく)を活用した授業研究を各学年が年間1回以上取り組み、児童が目標をもって主体的に学べる「探究的な学び」を実践する。	①毎日の授業でタブレット端末を活用することができたか。 ②学校及び家庭において、スタディ・サプリを活用した学習に取り組みすることができたか。 ③学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が昨年と同様もしくは向上できたか。	○授業においてタブレット端末を使用することが日常的になった。全国学力調査の意識調査では、タブレットの活用度について、授業での活用は平均を上回っており、毎日適切に活用されている。ただし、授業時間以外での活用については若干下回っている。 ○スタディ・サプリの活用については、教員に偏りがあるものの、主に復習や自習の時に活用し、生徒も積極的に活用することができた。 ○教員における肯定的な回答は、ほぼ全員だった。	B	★タブレット端末の故障が多く、修理に時間がかかった。破損等を防止する指導を引き続き行っていく。研究所からの貸し出し台数が増えたため、以前よりは不足台数は減ってきた。 ★学習に生かすための工夫を議論し、効果的に活用できるようにする。 ★補充タブレット端末が増えたとはいえ、タブレット端末の不足はあるので、スクールダッシュボード等の実施に際しては工夫が必要。
			①STEAMS教育については、作成したカリキュラムの検証を行う。 ②SDGs教育については、PRシートを確実に実践する。また、見直しを行い、学習に結び付くカリキュラムを作成することができたか。	①「STEAMS TIME」をカリキュラム通りに実施することができたか。 ②SDGs教育のPRシートを確実に実践することができたか。また、見直しを行い、学習に結び付くカリキュラムを作成することができたか。	○「STEAMS TIME」にかかわる校内研修を行い、全教職員の共通理解のもと実施することができた。全学年が総合的な学習の時間を活用して取り組むことができた。 ○SDGs教育を各教科の年間指導計画に位置付け授業をするとともに、PRシートについては教育と地域に関わる内容を組み込んだ。	B	★今年度については、計画通りに実践することに重点を置いたため、来年度は反省等を生かしてカリキュラムの改定を行う。 ★SDGs教育のPRシートについて、実践し検証していく必要がある。
2	(現状) ○安全点検実施結果に対して、迅速・確実に対応する体制を整えている。学校評価では、「積極的な環境美化への取組」について、肯定的な意見が、生徒97%、保護者96%であった。 ○生徒は全体的に落ち着いている。生徒の学校内外における挨拶については、昨年度からの取組の結果、地域の方々からもよい評価をいただくことが増えた。 (課題) ○「心と生活のアンケート」等に心の不安定さが表れる生徒が学級の1割程度在籍する。 ○校舎が古く老朽化しており、施設設備の不具合、故障が多い。	・生徒の教育活動を支援するための組織的な対応 ・安全、安心な学校生活のための教育環境の充実	①生徒に関わる課題については、「チーム学年」で対応し学年主任を中心に「事実の確認→生徒への適切な指導→保護者への連絡」を迅速かつ確実に行う。 ②生徒指導・教育相談に関わる情報交換を週1回行う。 ③生徒の学びを止めないために、欠席者については、オンライン授業等で学習のフォローを行う。	①生徒の課題を覚知した際、その日のうちに解決することができたか。 ②生徒指導・教育相談に関わる諸課題について、学年や関係機関等と連携して対応することができたか。 ③希望者に対して、オンライン授業を実施することができたか。	○生徒に関わる問題が生じた時は、学年主任や生徒指導担当が中心となって、その日のうちに事実確認と指導をし、保護者に連絡することができた。 ○毎週生徒指導・教育相談の各委員会を確実に行うとともに、諸問題について、担当学年とさわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携が密に行えた。管理職は、児童相談所や警察、支援課等との連携が図れた。 ○希望者には積極的にオンライン授業を行い、日常的にハイブリッド授業を行うことができた。 ○意図的、計画的に点検をし、修理が必要な個所が見つかった時は迅速に関係機関と連携した。また、事務職員と密に連携を図り、学校予算で業者に依頼したり用務員に修繕を依頼したりした。	A	★生徒の様子は変化していくため、問題が生じる前に、小さな変化を見逃さずに、積極的に面談等を行い、問題の早期発見に努める。 ★定例会については、その進行について見直しを図り、事案の報告で終わらず、具体的な支援策等が話し合えるような場とすることができた。 ★不登校生徒や心が不安定な生徒については、一層のさわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携が必要である。
			①校舎の状況を確認するために、校内巡視を随時行い、修理が必要な個所と思われる場合は、関係機関と相談をし、学校でできることを迅速に行う。	①修理が必要な個所が見つかった場合、関係機関と相談して進めていくか、学校で対応することができたか。	○体育館への空調設置は完了したが、予定されていたリフレッシュ工事については着工延期となっている。そのような中でも安全安心な教育活動を行うため、教育環境に関わる修繕は、市教委とも連携を図りながら積極的にすすめていきたい。	B	
3	(現状) ○昨年度は、コミュニティ・スクールにて、生徒に育成させたい力について熟議をし、作成した。今年度は、更に具体的な事例を基に学校と地域が連携した取組を熟議していく。 ○地域や保護者に対して、活発に情報提供を行うために各自治会と連携すると共に、電子化をすすめているところである。 (課題) ○学校運営協議会での話し合いは充実しているが、役割を明確化した組織的・継続的な連携・協働体制をより進めていく必要がある。 ○学校HPは、適宜更新の頻度がまだ低い。	・コミュニティ・スクールによる学校、家庭、地域との連携強化 ・デジタル・トランスフォーメーションの推進	①今年度コミュニティ・スクールで取り組む「地域の支援に感謝をし、自らを律し、一生懸命取り組む生徒」について、熟議で具体的な方策を探り、実践する。 ②今年度コミュニティ・スクールで取り組む「地域の支援に感謝をし、自らを律し、一生懸命取り組む生徒」について、熟議で具体的な方策を探り、実践する。	①学校運営協議会の熟議でテーマにかかわる具体的な方策が決めることができたか。 ②具体的な方策が実践することができたか。	○今年度は、学校の現状を踏まえ、どのような教育活動を進めていくか、について様々な意見をいただいた。 ○熟議の結果を来年度の行事計画に入れるとともに、生徒の地域での活動について、本年度取り組めることは既に実施した。 ○安心メールを活用し、校外学習時などタイムリーな情報発信を行うことができた。 ○紙がよい場合、電子がよい場合、それぞれの利点を生かした情報提供を実施した。 ○欠席連絡をFormsの運用で円滑に行うとともに、毎日の体温記録を生徒がタブレットで記録することができた。	A	★今年度、計画した行事について実践し検証する必要がある。 ★学校行事との兼ね合いで難しい場合があるが、案内の仕方を工夫するなど、多くの生徒が参加できる方策を考えたい。
			①今後、学校だより等の定期的な配付をはじめ、文書形式のものについては、学校HPに掲載し、掲載時には、保護者への周知を行う。 ②生徒の欠席連絡については、Formsを活用する。	①紙媒体での配付を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡について、欠席連絡をFormsに一本化することができたか。	○欠席連絡をFormsの運用で円滑に行うとともに、毎日の体温記録を生徒がタブレットで記録することができた。 ○問題解決型学習については、どの教職員も授業の目標を意識して取り組むことができた。 ○授業の終末における振り返りについては、手で書くかタブレットに入力する時間を確保し、凡そ達成することができた。 ○プロジェクターの設置により、黒板に映像を映すことが多くなってきたが、板書計画を立て計画的に展開することができた。 ○昨年度と比較して、今年度は全体的に在校時間が昨年度より5%程度削減することができた。 ○ノー残業デーについては、全教職員が行えたことはなかったが、それを意識した業務を行えた。 ○電子データによる職員会議等を行い、ペーパーレスで会議を実施した。	B	★来年度は、保護者の文書等をHPに掲載するなど、電子化を進めていきたい。また、HPの内容も定期的に更新し、常に新しい情報を発信していく。 ★Formsの活用は進んだが、連絡のない欠席の場合も多く、その対応に時間がとられる。
4	(現状) ○デジタル機器の取り扱いに慣れた教職員が多く、タブレット等のICT機器の操作の習得が早い。 ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 (課題) ○授業において従来から「課題を意識し、解決する学習」のための指導法を大切にし、タブレットが目的にならないようにする。 ○職員が見通しをもって業務に当たれるよう、計画的に学校を運営することが必要である。	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上 ・職員の計画的な業務	①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振り返りをする授業を全員ができるようにする。 ②校内巡視をする際、授業を参観し、必要に応じて指導を行い、コミュニケーションを図りながら、教職員の指導力の向上を図る。 ①個々に応じたノー残業デーを各自で設定するよう働きかける。 ②適宜、職員に声をかけ、相談に応じたり、必要に応じて指導・助言を行う。	①問題解決型学習において、本時の目標に関わるまとめと振り返りをする板書ができているか。 ②全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ①ノー残業デーを各自で設定し、実行することができたか。	○問題解決型学習については、どの教職員も授業の目標を意識して取り組むことができた。 ○授業の終末における振り返りについては、手で書くかタブレットに入力する時間を確保し、凡そ達成することができた。 ○プロジェクターの設置により、黒板に映像を映すことが多くなってきたが、板書計画を立て計画的に展開することができた。 ○昨年度と比較して、今年度は全体的に在校時間が昨年度より5%程度削減することができた。 ○ノー残業デーについては、全教職員が行えたことはなかったが、それを意識した業務を行えた。 ○電子データによる職員会議等を行い、ペーパーレスで会議を実施した。	A	★来年度も継続的に取り組む必要がある。授業の終末における振り返りについては、全体共有が課題に上がるため、全体共有するまでの時間確保に取り組みたいと考える。
					○昨年度と比較して、今年度は全体的に在校時間が昨年度より5%程度削減することができた。 ○ノー残業デーについては、全教職員が行えたことはなかったが、それを意識した業務を行えた。 ○電子データによる職員会議等を行い、ペーパーレスで会議を実施した。	B	★在校時間については、全体的に減少しているが、一人ひとりを見ると課題がある。一層の声掛けをしていく必要がある。

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

- ・具体的に記載されており分かりやすい。
- ・このまま頑張してほしい。
- ・B評価のところでもA評価としてもよいところもあると感じている。
- ・タブレット端末については十分活用されていると感じる。
- ・組織的に取り組んでいる。
- ・少数ではあるが、学校評価アンケートで否定的評価をしている保護者や生徒について、丁寧に対応する必要がある。
- ・施設面の改修についての見通しはないままか。
- ・自治会や地域との連携はよくできている。
- ・これからも地域活動への積極的な参加をお願いしたい。
- ・今年度できなかったものも、来年度以降、是非お願いしたい。
- ・プロジェクターなどのICT機器の有効活用ができている。
- ・働き方改革の視点から、部活動の地域移行などは進んでいるのか。教員の負担についてはどうか。
- ・健康に留意して働いてほしい。